

# トレンドウォッチング vol.78

## 大切な資源！浜松市「使用済み・紙容器」回収の現状について NPO法人「えこはま」事務局長・高根美保さんに聞く

海に流出しているプラスチックのごみ問題をきっかけに、紙の需要が増加。そこで、家庭から出る「使用済み・紙容器」を新たな資源として活用しようと、浜松市で昨年4月から始まった回収の実証実験。回収先の浜松市西部清掃工場内の環境啓発施設「えこはま」企画・運営担当者の高根美保さんに、現状をお聞きしました。(聞き手・岡田有加)

—これまでの実績をお聞かせください

市民や企業、約5000人のご協力により、今年3月までの一年間に約245.3キロの使用済み・紙容器を回収しました。回収対象の紙容器は、「紙」の環境マークのついたアイスクリーム、ヨーグルト、紙コップの3つです。

—市の人口(約79万人)からするとまだ少ないですが、成果は？

実証実験を行う中、消費者の行動変化が見られました。家庭内で分別する子どもの行動を見習ったり、何らかの環境行動をしたい人の気づく機会となり、実践者が着実に増えています。「もえるごみ」が減ったという声もあります。

—何か課題はありますか？

回収場所が限られていることで、利用したくてもできないという市民の声があります。また、乾燥していない紙容器を重ねてしまい、カビが発生していることや、対象外の商品が紛れ込むことがあります。

—回収場所を増やす予定は？

ご希望があればご相談ください。

—改めて、紙容器を持参する際の方法や場所をお教えてください

回収対象の紙容器を、洗って、乾かしたら、つぶさずに重ねてい

ただき、浜松市西部清掃工場にお持ちください。建物東側の正面玄関を入ると、受付前に回収BOXがあります。「えこはま」は月曜休館で、午前9時から午後4時です。一回回収した紙容器は、ダンボールの原料に生まれ変わるそうですね。目安の量は？

リサイクル先の日本製紙(株)によると、ヨーグルト400㍓サイズ45個分で、120サイズ(3辺計が120㍓以内)のダンボール一個になるとのことでした。

—地道な積み重ねが大切ですね。市民の皆さんへ現場の声をお届けください

“もやしたらもったいない”を合言葉に「できることから」始めてみませんか？「えこはま」は、環境行動3Rの情報などを発信しています。いつでもお問い合わせください。



①NPO法人「エコライフはままつ」(☎053-440-0150、E-mail: info@ecolifehamamatsu.com)事務局長の高根美保さん。浜松市西部清掃工場内(浜松市西区篠原町26098-1)にて。家庭ごみ減量とリサイクルの推進を目指しています②紙容器の回収を呼び掛けるチラシ③日本製紙(株)の「使用済み・紙容器」回収ボックス④回収可能な紙容器類(例)